愛知県 / 岩本川

いわもとがわ

浚渫から始める！地域に愛される ふるさとの川づくり

土砂が溜まって草ボーボー、人を寄せ付けなかった小川が、
住民と市の川の共働で「生物に配慮した遊べる川」として
維持されています。その小川で地元小学生が遊び、学び、
文字・絵・劇で下級生や保護者に伝え、
地域に愛されるふるさとの川になりました。

経緯・目的

荒れた小川にみんな悩んでた！

豊田市内の中小河川では、土砂の過剰な堆積や草の繁茂により、人が近づけない、川の流れが見えないような状況がみられます。地域住民の要望により行政が浚渫を行う、どこにでも見られる維持管理サイクルですが、実はみんな悩んでいました。地域住民は「浚渫しても、またすぐに土砂が溜まってしまう。豪雨もあるし心配だ。」、河川課は「工事には費用も掛かるし、生態系への配慮も必要だ。」、矢作川研究所は「川で遊ぶ親子が見られないし、人と川の関係が希薄になっている。」等々。こうした三者三様の悩みが、土砂の溜まりにくい川づくりをみんなで力を合わせてやっていく「ふるさとの川づくり」へと繋がりました。

みんなで考えよう！ みんなでつくろう！ ふるさとの川づくり

岩本川をモデル河川として、河川課が行う浚渫工事に合わせて、住民と行政が一体となったワークショップや川遊び体験会を開催しました。地域住民の皆さんに岩本川の昔の姿を語り合ってもらい、部分的に浚渫や草刈りを実施した場所での川遊び体験により岩本川の今の姿を実感し、その上でどんな川にしていきたいかを描いた「未来希望図」を作成しました。未来希望図に基づき、自分たちでできることは住民が、大規模な工事は行政がやるという役割分担を定め、岩本川でのふるさとの川づくりは進められています。

Profile

【河川名】
矢作川水系岩本川

【執筆者】
山本大輔・吉橋久美子（豊田市矢作川研究所）

活動のながれ

- 2015.5 浚渫工事。以後、段階的に実施。
- 2015 住民ワークショップ開催・川遊びイベント開催。
- 2016.3 未来希望図が完成。
- 2016.7 住民参加の「川づくり体験会」で魚道、生き物のすみか、仮足場づくり。
- 2016.12 管理用階段設置工事。以後、巨石水制工を含め、段階的に実施。
- 2017.3 川づくり住民団体「岩本川創遊会」発足。草刈りや川遊びイベントを定期的に実施。
- 2017.5 地元の小学校が川学習を開始。

今の川を知るための川遊び体験会

住民ワークショップで将来像を描く

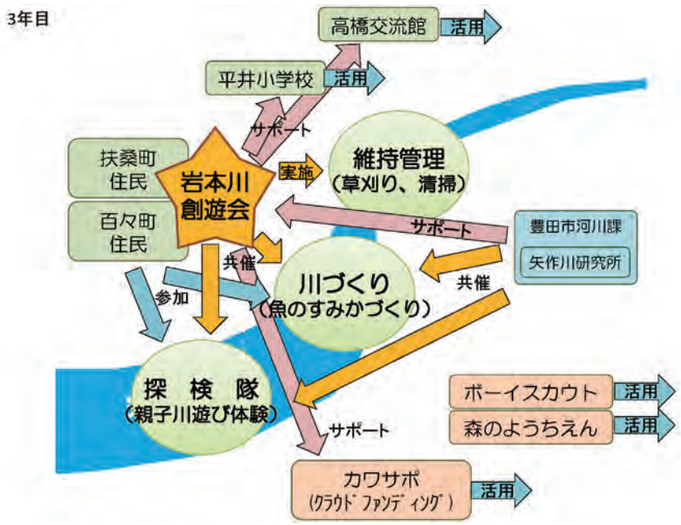
浚渫から始まる川づくり

実施体制・スキーム

ふるさとの川づくり事業3年目（2017年度）時点の概念図です。岩本川を境に向かい合う扶桑町と百々町の住民からなる「岩本川創遊会」が、岩本川の日常的な維持管理や地元小学校の川学習サポートを行っています。

当初、活動を先導した豊田市（河川課、矢作川研究所）は、岩本川創遊会の活動支援を行っています。

岩本川は小学校だけではなく近所の親子、生涯学習施設、子育てグループなど地域の人々に活用される川になりました。



工法の説明・工夫した点

それぞれができることを役割分担

ふるさとの川づくりでは、地域住民と行政それぞれができることを役割分担しています。行政による浚渫では、一度に全ての区間を行わず、複数年で段階的に浚渫することで、生息する生物への影響が少なくなるように配慮しています。浚渫後は、維持管理用の階段を設置することで川へのアクセス性を高め、地域住民が草刈りや清掃を行います。定期的な草刈りにより土砂が溜まりにくくなり、景観も保たれ親水性が高まることで、地域の親子が川で遊ぶようになることを期待しています。

子どもも大人も関われる川づくり

浚渫後の単調な環境の川に変化をつけようと、小さな自然再生に挑戦しています。矢作川流域では自然石を使用した工法に馴染みがあり、石組みによる川づくり体験会を開催しました。川づくりは誰にとっても初めての作業だったため、スコップで川底を掘る、石を運んで並べるなど、子どもでも取組めるシンプルな内容としました。一方、大人向けには少し難しめの内容として、落差を軽減する複数の小さなプールづくり（魚道づくり）に挑戦しました。石工さんの指導を受けながら作り上げた魚道は、どこか自然美を感じさせる出来栄えで、完成直後にはさっそくオイカワが上下流へ移動する様子が観察されました。

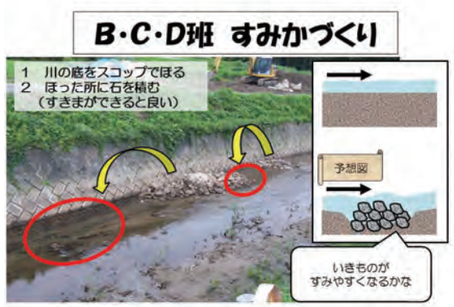
そして、この一か月後には川遊びイベント岩本川探検隊を行い、川づくりでつくった仮設階段で川に出入りしたり、すみかづくりをした場所でニシシマドジョウやカワムツの稚魚を捕まえたり、自分たちの作業の効果を実感しました。しかしながら、さらに一か月後に来た台風の影響でつくったものが軒並み壊れてしまい、自然相手の取組みの難しさも痛感しました。

浚渫後の単調な環境の川

使用材料・工具・造り方

大人の力作（分散型落差工の魚道）

ふるさとの川を育む草刈り



できるだけ簡単に分かりやすいよう工夫した

魚の生息環境をイメージして石を配置

施工後の維持管理や利活用の工夫

岩本川創遊会発足後、定期的に草刈りや清掃が行われており、いつ訪れても雰囲気が良い川の景色が保たれています。そのため、地域の親子や子育てグループなどが自然と岩本川に遊びに来るようになりました。川づくりのトータルコーディネートを行う矢作川研究所が視察を受けた際やクラウドファンディングサイトのカワサポ（一般社団法人ClearWaterProject）などの現地研修会にも活用され、外部の人の意見を聞き、刺激を受ける良い機会にもなっています。

また、地元小学校の先生やPTA役員に岩本川の取組みを紹介した結果、2017年度から総合的な学習の時間や町探検の時間を使って川学習が行われるようになり、岩本川創遊会と矢作川研究所が子どもたちの川学習の指導や見守りを務めています。岩本川創遊会の会員はみんな現役世代で、授業を受ける子どもたちの中に自分の子どもがいるため、授業のサポートも活動の楽しみのひとつのようです。

台風で壊れた魚道の手直しにも挑戦

小学校による川学習　2019年6月

効果（一次効果・二次効果）

地元小学校は岩本川を学習の場として活用しています。2018年度には2年生4回、1年生2回の川学習が行われました。2年生は、岩本川の大きな模型などをつくって1年生や保護者に川の生き物の捕り方や川遊びの仕方を伝える体験型授業を行ったり、学芸会では岩本川で知ったことと地域の伝承を題材にした劇を作成、上演したりしました。

オリジナル劇「岩本川様と川坊主」2018年11月

現場のキーパーソン

岩本川創遊会（いわもとがわそうゆうかい）

この地区で生まれ育ち、少年時代岩本川で遊んだOさんを会長とし、現在40代～50代の男性メンバー13人で和気あいあいと活動をしています。
岩本川を挟んだ扶桑町と百々町には、本流の矢作川の川辺を整備する「水辺愛護会」があり、それぞれの活動をしていますが、岩本川創遊会はこの二つの町の住民が一緒に活動しているのが特徴です。また、地元で生まれ育った人のほか外部から移り住んだ人も多く、地域に溶け込むきっかけにもなっています。